

潮来市国民健康保険保健事業について

【高齢者の医療の確保に関する法律】「データヘルス計画・特定健診等実施計画」（別紙①）
保険者の役割として被保険者の医療レセプトや健診データを分析し医療費や介護費負担を抑制できる保健事業の展開が求められている。

【保健事業の目的】

被保険者の健康増進・疾病予防 特に「糖尿病等生活習慣病の発症予防・重症化予防」
「健康寿命の延伸」「社会保障費の安定」

【背景】

- ・ 高齢者の増加、現役世代の急減
(2025 年団塊世代がすべて後期高齢者へ 2040 年高齢者人口がピーク)
- ・ 社会保障費の増加
(2040 年医療費 1.7 倍・介護費 2.4 倍：潮来市はこの 20 年で医療費 1.4 倍・介護費 2 倍)
- ・ 国は糖尿病等の生活習慣病の予防・重症化予防や認知症予防等を重点課題としている

【潮来市国保の状況】

- (1) 国保加入者…R3 年度 26.0%
- (2) 医療

「様式 3-1 生活習慣病の全体のレセプト分析」（別紙②）

虚血性心疾患が 20 歳代以下で 2 名、30 歳代で 3 名発症しており、また脳血管疾患は 30 歳代 5 名が発症しています。心臓や脳血管疾患の発症の前に、高血圧や脂質異常症・糖尿病などの基礎疾患を発症していたと考えます。子どもの頃からの生活習慣や若いころからの健康診断がとても重要になります。

加齢とともに生活習慣病は増えています。70 歳代になると約 7 割は高血圧、約 5 割は脂質異常症、約 3 割は糖尿病で治療を受けている状況です。男性の脳血管疾患や虚血性心疾患は女性より多く、約 2 割の方が発症しています。発症後には介護を必要とする状態になっていることが多い疾患です。

糖尿病等生活習慣病で治療していても、きちんとコントロールが出来ているのか？メタボリックシンドロームではないか？など健診を受診しないとわかりません。

「医療機関に通院しているから健診を受けていない」という健診未受診者は 5 割以上と多い状況です。

(3) 健診…受診率の低迷 (R3 年度 28.5%)

「様式 5-2 健診有所見者の状況」(別紙③)

健診受診者の有所見状況をみると一番多いのは HbA1c 53.4%、次いで LDL (悪玉コレステロール) 48.7%、次いで収縮期血圧 46.9%が多い状況です。

性別でみると男女とも HbA1c (高血糖) が一番多く、次に多いのが男性では肥満(腹囲) 54.2%、女性では LDL52%が多い状況となっています。

また医療受診が必要な段階にも関わらず、受診しない者が他市と比較して多い状況です。

【保健事業の重点課題】

健診未受診者対策

- ① 対象者に受診券の送付・個別受診勧奨 (年 3 回)
 - ② 健診の重要性について健康カレンダー等にて周知
 - ③ 認定こども園・小学校・中学校を通して保護者へ健診受診勧奨
 - ④ 商工会会員へ個別受診勧奨
 - ⑤ 母子保健事業など各種保健センター事業を通して健診の重要性について説明し健診受診勧奨
 - ⑥ 学校保健委員会にて潮来市の健康実態について説明し健診の受診勧奨
 - ⑦ 医療機関との連携…「医療機関健診」「情報提供事業」「みなし健診」協力依頼
* 市内薬剤師会に協力依頼
- ★19-39 歳の健診・保健指導事業 (早い段階から健診を受診する習慣づくり)

糖尿病等生活習慣病の発症予防と重症化予防対策

全身の血管を守るため (特に脳・心・腎)、健診結果から重症化しやすいハイリスク者を抽出しその対象者に対して訪問、面接、手紙や電話にて個別保健指導を実施しています。(健診受診者の約 3 割相当)

糖尿病管理台帳等を作成し、過去の健診結果で糖尿病を強く疑われる者で健診未受診者 (特に医療未受診者) に対しても訪問等にて個別保健指導を実施しています。

かかりつけ医や専門医と事例を通して連携して糖尿病等生活習慣病の重症化予防に取り組んでいます。

- ・令和 3 年度：家庭訪問等による個別保健指導実施数 460 人 (保健師 4~6 名体制)